
2017年度 第5回

郵博 特別切手コレクション展

「心をつないだ年賀郵便の歩みーそして未来へ」展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館

特定非営利活動法人郵趣振興協会

後援：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

開催日時

2017年11月11日（土）13:00-17:30

2017年11月12日（日）10:00-17:30

会場：郵政博物館

展示作品一覧

カッコ内の数字は展示フレーム数です

年賀状の歴史 (8) 安井 浩司

開国により日本の近代化が本格化する嘉永7年(1854年)から戦後までの激動の日本の歴史を年賀状から振り返ります。

年賀状の郵便史 (8) 吉田 敬

経営の観点から年賀郵便の歴史をダイナミックに描いた郵便史作品で

小判葉書の年賀状 (3) 那須 伊允

明治9年に発行された小判葉書に限定した年賀状で、当時の郵便印、裏面の絵画、略暦等見て楽しいものを選択展示しました。

昭和11～31年用年賀切手 (8) 粟 篤吉

昭和31年までの年賀切手です。大量生産・配布により生じた、多様なバラエティーや使用例を紹介します。

28年年賀切手「御所人形」 (3) 横山 裕三

年賀切手のうち、版欠点(定常変種)が最も多い昭和28年用に特化して、普通シート及び小型シートの分類を試みました。

年賀切手1936-1971 (5) 水谷 行秀

年賀切手を旧来の手法でまとめた作品。単片でも小型シートの特徴が現れているものを示しました。

戦前絵入年賀印 (4) 粟 篤吉

年賀状早期差立て奨励のため、昭和10～13年に専用印が作られました。絵入で見た目に楽しく、機械印は後年に流用されてます。

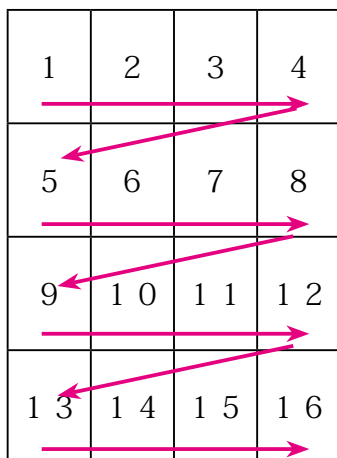
[郵政博物館収蔵品特別展示]

幻の昭和23年用年賀郵便ポスター

大正2年の年賀状の案内ポスター

切手コレクションの観覧順序

展覧会に展示される切手コレクションは、「展示リーフ」という用紙に整理されて展示されています。この「展示リーフ」は16枚ごとにパネルに収められ、各パネルで以下の順で展示されています。



したがいまして、各パネルにおいては、展示リーフは、上段から、左から右へと、ご覧ください。

なお、切手コレクションの整理方法には様々なやり方がありますが、この展示方法は、分かりやすさ・コストなどの点で現在最も普及している方法で、日本だけでなく、欧米、アジア、オセアニア、アフリカの各国でも同様の方法が採用されています。

作品をご覧になられてのご質問や切手収集に関するご質問については、場内におります主催者・展示者にどうぞお声がけください。

年賀状の歴史 (8)

安井 浩司

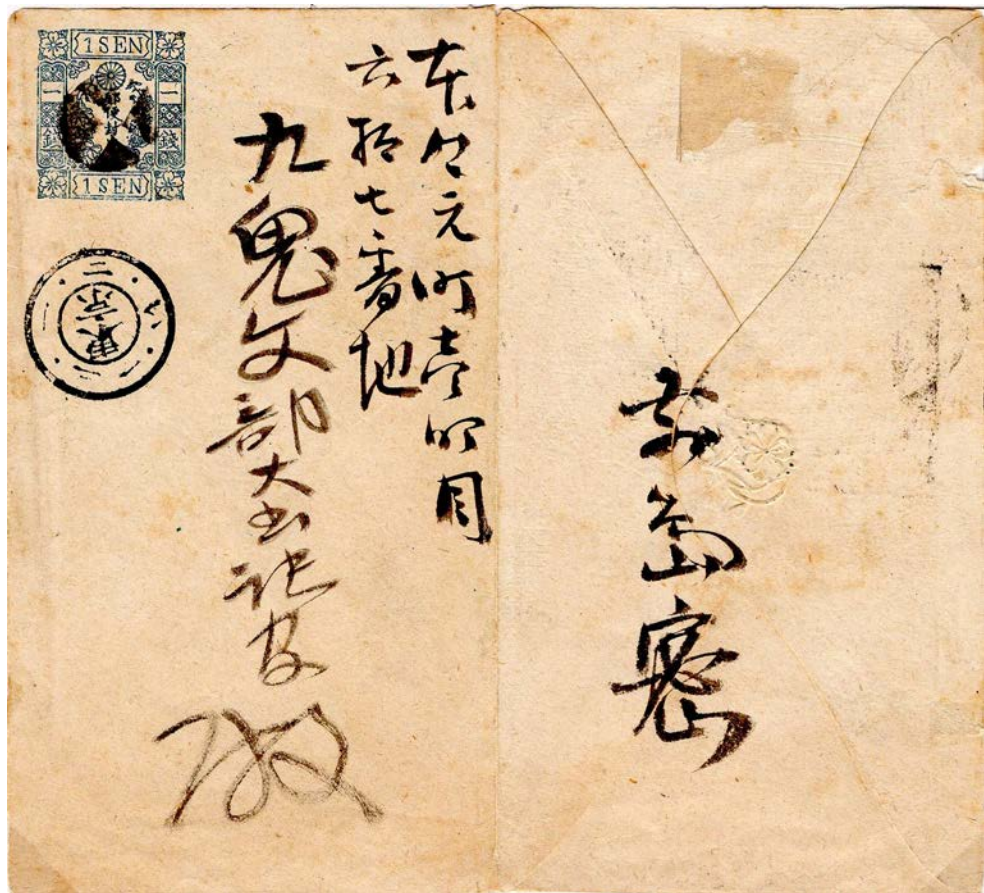
嘉永7年（1854年）アメリカのペリー艦隊が再来航し日米和親条約が結ばれて日本は開国し、幕末の動乱期に突入します。この年から昭和64年までの日本の歴史と郵政の作業の効率化と売上増策の観点を年賀状で振り返ります。

さて、明治10年代になると正月行事としての年賀回礼には赴かずに、賀詞を書いたはがきを発送するようになってきます。また正月用の引き札も配り歩くのではなく、はがき等に印刷した広告の年始郵便も加わり、これらを年賀状と称するようになります。この風潮は年を追って盛んになりますが、逓信省は短期間で売り上げの大幅増加が期待できることから、その対応に取り組みます。

その結果が、指定期間内に差出された年賀状に先付け日付である1月1日初号便の消印を押して1月1日に配達する制度の創出でした。作業平準化と売上増加の一石二鳥が期待できる極めて優れた方策です。明治33年度に初めて試行して以降改良を加え、明治39年施行の年賀特別郵便規則により、法制化されました。

関東大震災や戦中戦後期には中断したりなど様々な困難を乗り越え今日まで、年賀状は日本人の生活になくてはならない習慣として定着しています。

前島密から九鬼隆一に差出した年賀状



東京局 12.1.2 い便

年賀郵便の歴史 (8)

吉田 敬

「年賀郵便」の狭義は、明治39年11月に定められた「年賀特別郵便規則」等により取り扱われた郵便です。しかし本展示では「年が改まる事に付随して送信される郵便物等」と広義に定義すると共に、規則制定までの年賀挨拶をプロローグとして包含しました。

実際、逓信省が新たな規則を制定するほど、明治39年以前の年賀郵便は盛んにやりとりされる正月の習慣になっていました。しかしながら、郵便制度成立以前の正月の年賀状の送付は、飛脚を利用した商人を除けば、民間でやりとりされていた形跡はまずなく、この習慣はわずか30年ほどの間に一気に一般化したことがわかっています。

そのような草創期から始まり、以後の年賀郵便の歴史を展開するにあたり、慢然としたしたマテリアルの葉書羅列にならないよう、郵便事業経営の観点からの表現を試みました。具体的には交互にやってくる売上の伸張をさせる時期、支出削減に注力する時期をフレームを分けて展開したほか、経営につきものの事業存続リスクの影響もストーリーに盛り込みました。



定形外書状による年賀状 大阪東C欄年賀入り櫛型印 17.1.1 (2005)

小判葉書の年賀状 (3)

那須伊允

日本には古くから年の始めを寿ぐ年賀状の交換という習慣があり、明治初年の飛脚便、郵便制度が始まってからの年賀書状や年賀はがきがたくさん残されている。この展示では未だ私製葉書の無かった時代の明治9年9月発行の小判葉書に限定した年賀状を紹介します。年賀状は表面に押された消印より、裏面を見て年賀状と判断しますので裏面が重要な要素となり、達筆な賀詞や略暦・絵画でも楽しむことができる。



maruyaの手彩色葉書

昭和 11 ～ 31 年用年賀切手 (8)

粟 篤 吉

昭和 11 ～ 31 年までの年賀切手を取り扱います。年賀切手は今日まで続く長期シリーズですが、この間、14 ～ 23 年は戦争による中断し、24 年に復活したものの 25 年から官製年賀葉書の発行され、存在そのものが揺らいでいた時期に当たります。

戦前は億単位で発行されたため使用例が豊富。11,12 年は年賀専用切手の意図徹底のため年内使用禁止だったことも特徴です。禁止だった年内使用を始め、2.26 事件の検閲便、満州から中国に宛てた貼り替え使用、全国化前の速達使用など郵便史的にも面白い例が集まりました。

戦後は官製年賀葉書が登場して存在意義が揺らぎ、25,27 年は完全に正月明けに発行されました。26,28 年は正月発行のため多くはありませんが年賀状の使用例が存在します。戦前ほどではありませんがくじの景品として配られたため広く使われました。

また、12 年用よりグラビア印刷が使われ、多くの定常変種があります。これによるシートの整理を行いました。その他、目打ちの特徴が明瞭なブロックなど展示しています。今回は年度順に紹介し定常変種をはじめとする製造面、年賀状を中心とした使用例を取り上げます。



昭和 27 年用年賀切手の当初原画

28年 年賀切手「御所人形」(3)

横山 裕三

昭和28年用年賀切手は、【御所人形】〔能の『翁』（『式三番』）の後半に狂言方が演じる舞である『三番叟（さんばそう）』がモデル〕を描いた、可愛らしい切手です。単片切手20枚構成の普通シート（昭和28年1月1日発行）と単片切手4枚とタブ2枚からなる小型シート（昭和28年1月20日から交換開始）がありますが、それぞれを単片にした場合、刷色は勿論、目打ピッチ、用紙、裏糊といった製造面要素に違いが無いいため、両者を区別することは困難でした。

ところが、印刷に用いた実用版の製版技術が低かったとみえて、それぞれの切手には版の不良を起因とする「定常変種」が沢山生じてしまいました。切手印面の各所に似たような変種（赤点や白抜け）が大量に現われるので識別することは厄介ですが、定常変種が個々の単片切手に様々な表情を与えてくれているので、これらを分類して、今

では普通シートのものか小型シートのものか、それぞれのシートのどの位置（ポジション、「Pos.」と表示）の切手であるのかを同定することが、できるようになりました。手彫切手では、「第○版 Pos. ○」などと表示しますが、この御所人形の切手でも、かなりの割合で「シート○ Pos. ○」という表示が可能となりました。



シート仮AのPos.11。料額5の下の赤線は、もっとも大きい定常変種の一つ。

年賀切手 1936-1971 (5)

水谷 行秀

年賀切手は 1936 (昭和 11) 年用から始まり戦前には 1938 (昭和 13) 年用まで 3 回発行された。戦争のため 10 年間中断され 1949 (昭和 24) 年用から再開され現在に至っている。小型シートも 1936 年用は記念のため、1950 年用以降はお年玉つき年賀はがきの末等当選品として発行されている。戦前には一部で使用制限があったものの多量発行のため年賀はがき以外にも普通切手のように広く使用されている。

1950 年用から 1953 年用は年賀はがきの賞品が主で、一般に販売しない切手を賞品にする訳には行かないという理由で新年になってから普通シートのもを発行した。1952 用から 1966 年用のはがき 5 円時代には賞品を一般のはがき料金に合わせるため 5 円額面の切手を組み込んだ小型シートが発行された。年賀はがきは 4 円であったのに普通シートの切手も同じ 5 円額面で発行された。この間の年賀切手貼り年賀はがきが少ないのは 1 円高い年賀切手を敬遠した理由も大きい。

本作品は年賀郵便の観点ではなく、年賀切手の観点よりまとめた作品である。単片でも区別出来る普通シートと小型シートや、年代によって徐々に変わる消印のタイプそして短期間使用された試行的な消印などを取り込んだ。



琉球特別地帯宛船便書状 SENDAI 19 XII 59 (昭和 34)

戦前絵入年賀印 (4)

粟篤吉

戦前に一般の郵便物に使われた、機械印4種、櫛型印3種、の計7種について扱います。

昭和10年に台湾でヤシの木と日章旗の絵入年賀印が使われました。この他朝鮮で使われた特印が好評だったことを受け、年賀切手の発行が始まります。年賀状早期差立て奨励のため期間内に差し出された郵便物に絵入年賀印を押すというサービスが行われ、手押し用と機械用の専用印が全国各地で使われました。昭和13年まで続けられます。14年以降は戦争により新たな絵は起こされませんでした。機械印は日付変更可能なため流用され、戦後に標語印が廃止されるまで続きます。

櫛形印は通常の櫛形印の局名活字を使用できたため、D欄に☆やら満やら県名といった種類があります。台湾型機械印は各局で差異があるため全局紹介します。

使用例は葉書に偏りがちですが、無封便・封書その他、外信便や電報など幅広く集めるよう注意しました。残念がら終盤の14年以降は葉書一色です。

これらを時系列に沿って各年毎に、印の分類、便種・使用方法の2つを軸に作品を構成しました。



絵入り欧文櫛型印 OSAKA 12.1.1 (1937)

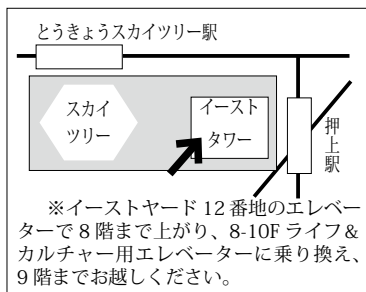
郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

2017年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/21-23	郵便制度史展 2017 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
5/13-14	沖縄本土復帰 45 年記念展 戦後 1972 年まで沖縄で独自に発行された「沖縄切手」コレクションが大集結
6/3-4	昭和切手発行 80 周年記念展 「昭和」の最高峰コレクションが揃い踏み
10/7-9	日本の記念特殊切手コレクション展 記念特殊切手の製造・発行・使用面を研究するグループの結成 10 周年記念特別展示
11/11-12	「心をつないだ年賀郵便の歩み ―そして未来へ」展 送り手の真心と郵政マンの努力の結晶「年賀郵便」の歴史を紐解く
12/9-10	第 5 回ヨーロッパ切手展 ヨーロッパ切手の本格コレクションが勢揃い
2018 年 2/3-4	第 1 回いずみ切手研究会展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる
2018 年 3/3-4	安藤源成コレクション展 フィラテリー 70 余年の軌跡と名品の数々を含む円熟コレクションを一堂に

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前 10 時～午後 5 時半ですが、初日だけ 12 時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しく下さい。



郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ 9 階
※イーストヤード 12 番地のエレベーターで 8 階まで上がり、8-10F ラーフ&カルチャー用エレベーターに乗り換え、9 階までお越しく下さい。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうスカイツリー駅(東武スカイツリーライン)両駅から直結。